



FUJIEDA ROTARY CLUB
藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org



会長：仲田 廣志 副会長：大塚 博巳 幹事：池ノ谷 敏正 副幹事：森下 敏顯

第1982回

【2012-2013年度 RIテーマ】 ■ ソング 我が藤枝ロータリー ■ ソング リーダー 江崎 晴城君

【紅葉】

写真提供：櫻井龍太君

■ 会長報告

仲田 廣志君

皆さん、こんにちは。今日はクラブ管理運営委員会の卓話です。保健担当リーダーの柳原先生に卓話をお願いしております。先生には1時ごろよりお話をさせていただきたいと思います。

年齢的に60も半ばとなりますと、やはり第一の関心事は健康問題です。私は高校時代テニス部に所属していたのですが、その仲間が毎年正月の2日に集まって酒を酌み交わす会を40年程続けています。話題も若い時は豊富で、仕事、遊び、趣味、政治経済とありとあらゆる分野に涉っていたように思いますが、近年はともかく健康問題が話の中心となっているように思います。毎年8人位集まるのですが、皆それぞれ多少なりとも気になるところはあるようです。お互い話をする中で、何だあいつもかと納得するというか安心するところもあるように思います。テレビ、新聞、雑誌等で高齢らもかかわらず活躍していらっしゃる方々を拝見するたびに、勇気付けられたり励まされたりもします。ともかく健康あっての人生です。明るくポジティブに生きてまいりたいと思います。

さて、最近のニュースで自治体職員の退職手当引き下げを盛り込んだ改正条例施行前に、駆け込みで自己都合退職を希望する教職員が相次いでいるとの報道がなされています。学級を担任している先生、教頭まで希望しているとのこと。年度末まで在職して子供を送り出して退職するのと自己都合で退職するとの報酬の差は、150万程とのこと。早期退職して減る報酬等勘案すると減額はその半分位のようなのですが、その数字が大きいのかそうでないのか、人それぞれの受け止め方の違いはあるのかと思いますが、何か、虚し

さ割り切れなさを感じるところです。近年、信義、道義、といった言葉の重みが薄らいできているように感じています。教員の倫理観の弱体化が進んでいるように思います。

今年度から中学1～2年生の体育授業に武道が必須科目として取り入れられました。教育の場に近代的な考え方のみならず、日本古来の礼節、道徳の重要性にも教示していくことは大変意義あることと思います。これからの日本が古来からの良き教えを継承しつつ物心両面豊かな社会へと進んでくれることを願いまして会長報告とさせていただきます。

■ 幹事報告

池ノ谷 敏正君

- 第2620地区より、
2月のロータリーレートのお知らせが届いております。1\$ = 88円です。
- (株)クマヒラより
「抜粋のつゞり」が届いております。
- ザ・ロータリアン誌2月号が届いております。
- 榛南RCより
会報が届いております。

■ 出席報告

中森 義次君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
33 / 39 84.62%	27 / 38 71.05%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○平君 ○竹田君 大杉君 落合君

仲田晃君 山田君

(2)メイクアップ者

青島 克郎君(藤枝南)

■ ビジター

I M実行委員長 小林 義信君（焼津南）

I M副実行委員長 斎藤 東洋君（焼津南）

I Mのご案内

焼津 R C

小林 義信君



焼津 R C

斎藤 東洋君

開 催 日 平成 2 5 年 3 月 3 日（日）

受 付 1 3 時より 開会点鐘 1 4 時

記念講演 「巨大地震に立ち向かう減災社会を築く」静岡県危機管理監兼危険管理部長
小川英雄氏

懇 談 会 1 6 時 1 0 分より

会 場 焼津グランドホテル

■ スマイル B O X 中森 義次君

- 2 0 1 2 ~ 2 0 1 3 年度静岡第 5 分区の I M の宣伝に来ました。平成 2 5 年 3 月 3 日焼津グランドホテルです。多数の登録をお願いします。

津南 R C I M 実行委員会

スマイル累計金額 1 4 9 , 7 3 0 円

■ クラブ管理運営委員会卓話

『看取り看取られ』

保健担当

柳原 寿男君



人は生まれて直ぐ、死への道を歩み始める。それ故、「看取り、看取られ」は誰もが避けて通れな

い事実である。

日本は少子高齢化社会を迎え、医療、介護の現場はどうであろうか。各々の立場で考える必要がある。

■ 3 分間スピーチ 松葉 義之君

「糖尿病と共生」



2 7 年前の昭和 6 1 年、4 8 歳の時です。1 月
に R C に入会させて戴いた直後 6 月頃に体調不良
になりました。R C メンバーの柳原先生の診断と
見立てから病院と浜松医大での精密検査の結果、
膵臓に腫瘍の疑いがあることが判明しました。

8 月に当時の志太病院で《膵頭切除》手術を受
けました。術後 5 年経過して移転等の恐れは無い
と言われて本当に安心したものです。

手術後担当医の先生から「貴方は今日以後イン
スリンの出ない立派な 1 型糖尿病です。糖尿病は
決して致命的な病気ではありませんが、正常な血
糖値を守る事を真剣に受け止めて真摯に付き合っ
て下さい」と云われました。それ以来 1 日 3 回イン
スリン注射を続けています。

医療機器の素晴らしい進歩で今のインスリン注
射は全く苦痛を感じませんが最初の頃は太い針で、
注射の度に一大勇気が要った事を思い出します。

日本のみならず世界で 1 型、2 型（インスリン
効果低い）糖尿病の人が多く聞きますが是非コ
ントロールをしっかりと健康な生活を送って欲
しいと念じています。

実はここ数ヶ月前から徐々に血糖の数値が悪化
して心配になりました。詳しく検査した所〔イン
スリン抗体〕の濃度が高くなってインスリン注射
が効かなくなって来た事が原因と分かりました。
2 6 年も打ち続ける事による現象との事です、
今の医学の進歩は必ず対応術が打たれると信じて
前向きに生活して行こうと思うこの頃です。

（担当 / 池谷君）